

「高程度」を表す漢語接頭辞について

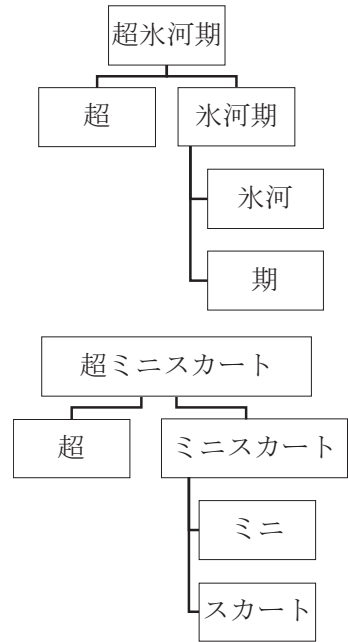
曹 佳 楽

一 はじめに

近年、私的な場面でも、公的な場面でも「超〜」ということばをよく耳にする。例えば、超ムカつく、超やばい、超国家的な、超新星などである。場面からみると、日本語としての規範性に雲泥の差があるものの、同じ「超」を使っているのは何故なのかを調査してみたい。また、「爆買い」が流行語になるとともに、「爆＋買い」の「爆」や「激＋安」の「激」が文法単位として、「超」と同じく合成語の前項となる、程度を強調する意味のある字音形態素だという説も聞かれるようになった(1)。しかし、「爆」・「激」と「超」では、俗的用法の広がりについて大きな差があるという直感が働く。そこで、「超・爆・激」が「接頭辞」として認められるのか、あるいは他の理解が成り立つのかを検証してみたい。さらに、この三者と似たような言葉は他にあるのかを考えてみることにする。

まず、ある言葉を「接頭辞」としてみなすには、どのような基準があるのかを定めなければならない。現代日本語において、非自立的ではあるものの接頭辞が漢語である場合、実質的な意味を担いながら文法機能も持つようになる。従来盛んに行われてきた否定接頭辞の研究においては、「結合専用語基」か「接辞性字音語基」か「漢語接頭辞」か「否定前置字音形態素」などと分類され、どのような概念を表すかによって研究対象と結論が違っている。本稿では、漢語接頭辞の認定基準を再検討し、分析対象について制限条件を以下のように四つまでに絞り、結合した語を「前置字音語基・漢語接頭辞＋主体語基」という構造から分析することにする。筆者は文字単位での使用方法に着目するため、従来の研究に比べてより広い範囲で接頭辞を認めることになる。

1、漢語接頭辞の接続機能を最大限にするため、漢語接頭辞は語構成上、最上位の要素であること。



2、接頭辞の非自立性を保つため、結合した語では、主体語基は単独で使用可能であること。

「超・ミニスカート」の ミニスカート

「ウルトラ・バイオレット」の バイオレット

3、漢語接頭辞と主体語基は意味構成から見ると、並列関係や主述関係ではなく、修飾関係であること。

「爆裂」(並列関係) ×

「爆鳴」(主述関係) ×

「爆笑」↓「爆・笑」(連用修飾) ○

4、接頭辞の造語力を考慮する上で、結合した語では、主体語基の機能を変化させずに接頭辞は他の漢語形態素に置き換えられること。

「超・国家主義」↓「ウルトラ・国家主義」
「急・増」↓「激・増」

次に、「超」の意味を基準として類似する語を探っていく。『日本国語大辞典(第二版)』においては、「超」は「程度がそれ以上、普通以上であるさま」と解釈される。それを受けて『日本国語大辞典(電子版)』(2)で全文検索した結果、「超」あるいは「程度が普通以上」と解釈された語には、他に「スーバー」・「ウルトラ」があった。そこで、この二語についても対照を試みる。

また、前に言及したように、「爆・激・超」を類語とみなす説がある。しかし、三者が文法単位として同質であり意味も近いのにも拘らず、辞書記述によると、「超」だけに俗な使い方が生じている。その理由についても分析したい。

二 研究対象

二一「超+X」

『日本国語大辞典(第二版)』によると、「超」は以下のように解釈されている。

【一】「接頭」

名詞に付いて、程度がそれ以上であること、また、それをさら

に逸脱するものであることを表わす。「超満員」「超高速」など。

【二】〔副〕

俗に、程度が普通以上であるさまを強調するという。「超うれし
い」

また、新語を積極的に採用することで定評のある『三省堂国語辞
典（第七版）』によると、「超」は以下のように解釈されている。

【一】（造語）

① 〔超〕

- A 超越（チョウエツする） 「一党派・一世間的な態度」
- B 基準・限度をこえた。「一高速・一満員」
- C ひじょうな。「一急カーブ・一人気作家」

【二】（副詞）

〔俗〕ひじょうに。とびきり。チョー。「1980年代に広まっ
た言い方」

「一うまい・一かつこいい・一釣れた・一むかつく」

辞書の解説によると、「超＋名詞」の「超」は接頭辞であるが、
俗語的な表現である「超」は副詞と見られていることが分かった。
そこで、具体的に「超」の下にどのような語が来るのかを確認し、
辞書の分類の妥当性を探るため、日本語話し言葉コーパス（CJS）

（3）で調査を行った。延べ語数は207件あり、表1に異なる語
を抽出し分類した。（品詞分類についてはCJSによる。）

二―二「爆＋X」

『日本国語大辞典（第二版）』によると、「爆」は字音語基として以
下のように解釈されている。

（1）はぜさける。はじける。破裂する。／爆裂／爆笑、爆破、爆
発、爆鳴／自爆／起爆、誘爆／爆音、爆弾、爆竹、爆薬、爆雷
／

（2）「爆弾」「爆弾攻撃」の略。／爆撃、爆砕、爆死、爆沈／原
爆、水爆、空爆、盲爆、猛爆／爆心、爆風／

同じく『三省堂国語辞典（第七版）』によると、「爆」は以下のよ
うに解釈されている。

〔俗〕

【一】（造語）「爆」

激しく。たいへん。

「一売れ・一食い・一上げ（株価や人気の急上昇）・一安」

【二】（名）爆笑

「くだけた文章の文末に、（爆）のように書く」

表 1

CJS による用例 (207件)							
超	+ 名詞	超	+ 動詞	超	+ 形容詞	超	+ 名詞・形容動詞
超	高速	超	むかつく	超	辛い	超	小型
超	高層	超	知らない	超	面白い	超	豪華
超	特太ゴシック	超	働いた	超	安い	超	退屈
超	特急			超	かわいい	超	ハード (コース)
超	新星			超	ださい	超	スロー
超	大物					超	巨大 (戦艦)
超	時制					超	プライベート
超	音波					超	有名 (店)
超	母数					超	強力
超	ミニスカート					超	バブリー
超	貧乏						
超	一流						
超	党派						
超	幾何 (分布)						
超	現実主義						
超	大手						
超	分節 (素性)						
超	高齢化社会						
超	東洋人						
超	合金						
超	重音節						
超	感動						
超	伝導 (磁気センサー)						
超	感度 (磁気センサー)						
超	氷河期						
超	指向性						
超	スパルタ						
超	スピード						
超	犬好き						

その他、「超～的な」の形の例も少なくない。

例：超指數的な、超国家的な、超教科的な、超機能的な、超自然的な

両辞書を調べた結果、「爆」は字音語基／造語成分として使われ、接頭辞としてはまだ認められていないことがわかった。また、意味上ペアになっている「爆笑・爆泣、爆買い・爆売れ」の四例を抽出して両辞書を調査したが、この中では「爆笑」だけが辞書に収録されていた。なお、新聞やツイッターなどで使用実態を調べてみると(4)、「爆イケ・爆カワ・爆モテ・爆ノリ・爆盛り・爆踊り・爆処理」などの例が見られた。そこで、「爆」は俗に「物事がいきなり爆弾のように発生し、勢いが強いさま」という意味で使用されていると考えられる。

二―三「激＋X」

『日本国語大辞典(第二版)』によると、「激」は字音語基として以下のように解釈されている。

勢いがつよい。はげしい。はげます。「劇」に同じ。／激激／奮激、激甚、激烈、激励／激越、激減、激昂、激震、激賞、激戦、激増、激痛、激突、激怒、激闘、激動、激発、激憤、激変、激論／過激、感激、憤激、急激、衝激／激化／激情、激務、激語、激湍、激流、激浪／

また、『三省堂国語辞典(第七版)』によると、「激」は以下のよう

(造語)(俗) はなはだ。たいへん。

「―安・―瘦・―混み・―吸収タオル」

「爆」と同様、「激」も造語成分として用いられ、接頭辞としてはまだ認められていない。しかし一方で、ツイッターなどで使用実態を調査すると、「激アツ・激カワ・激ウマ・激レア・激イタ・激ムズ・激甘・激おこ」などの語が見られた。そのため、雑誌や新聞記事に見られる「爆・激」について、「超」と同じ「接頭辞」であるとする説は、辞書の収録状況から考えれば再考する必要があるだろう。

二―四「スーパー＋X」

『日本国語大辞典(第二版)』・『デジタル大辞泉』・『情報知識imidas 2018』によると、「スーパー」は数多くの外来語の略語として使われているほか、「極度の、超、上の」などの意味を表し、『日本国語大辞典(第二版)』では語素、『デジタル大辞泉』では形容動詞、『情報知識imidas 2018』では接頭語と見なしている。

そこで、「スーパー＋X」についても日本語話し言葉コーパス(CJS)で調べてみた。延べ語数は265件あり、表2に異なる語を抽出し分類した。また、各語の英文字表記もGoogle検索により調べてみた。

表 2

CSJ による用例 (265件)			
	スーパー	X	英文字
アサヒ	スーパー	ドライ	super dry
	スーパー	サブ	super sub
	スーパー	ポライト	super polite
	スーパー	ジャイアンツ	super giants
	スーパー	ディスカウント	super discount
ソフト	<u>スーパー</u>	<u>ラボプロ</u>	<u>superlab</u> program
	スーパー	ブ레인	super brain
	スーパー	ライザー	super riser
	スーパー	ポッドデー	super pod day
	<u>スーパー</u>	<u>グループ</u>	<u>supergroup</u>
	<u>スーパー</u>	<u>コンピューター</u>	<u>supercomputer</u>
	スーパー	アイドル	super idol
	スーパー	ボール	super ball
	<u>スーパー</u>	<u>ホップスピアウォーター</u>	<u>superhops</u> beer water
	スーパー	ファミコン	super famicon
	<u>スーパー</u>	<u>ベクトル</u>	<u>supervector</u>

表 3 super (pref.)

動詞について	…の上に置く [置かれる]	superimpose, supersede.
	(物理的プロセスで) 極度にまたは普通ではない方法で出す	supercharge, supercool, supersaturate
名詞について	上に置かれた [更に加えられた] もの	superscript, superstructure, supertax
	通例の規範 [基準] を超える (人, もの, 性質)	superalloy, superconductivity, superman, superstar.
	同種の他のものより大きい [強力な, 広い応用範囲] を持つ (人, もの)	supercomputer, superhighway, superpower, supertanker
	特定の種類の少数派を成す項目を包含する範疇	superfamily, supergalaxy
形容詞について	…の上にある	superficial, superlunary
	ある部類の規範 [限度] を超える	superhuman, superplastic
	特定の性質を非常に [過度に] 持つ	supercritical, superfine, supersensitive

さらに、「super」は接頭辞として英語ではどのような意味用法を持っているのかを調べ、表3で示す。

二―五「ウルトラ+X」

『日本国語大辞典（第二版）』によると、「ウルトラ」は語素として以下のように解釈されている。

（英）・（ドイツ）ultra）

名詞の上に付いて、過度の、極度の、超、などの意を表す。昭和初期には急進的の意で、よく使われた。「―エゴイスト」「―国家主義」

日本語話し言葉コーパス（CJS）で調査すると、延べ語数は39件あり、同様に、表4に異なる語を抽出・分類して示したほか、各語についてGoogle検索での英文字表記も調べた。

また、「ultra」は接頭辞として英語ではどのような意味用法を持っているのかを調べ、表5で示す。

三 使用状況

前節の調査と表の用例から見ると、一文字の造語成分として、「超・爆・激」の造語力には大きな差があることが分かった。この

表4

ウルトラ	X	英文字
ウルトラ	ラージスケールインテグレーション	ultra large scale integration
ウルトラ	マン	ultraman
ウルトラ	バイオレット	ultraviolet
ウルトラ	セブン	ultraseven
ウルトラ	スパーク	ultrasparc

表5 ultra (pref.)

名詞について	…を越えた位置にある、…の限界にある	ultramontane, ultraviolet
	過度に、極端に	ultraleft, ultramodern
	通例の基準を超える物体・特性・現象やそうしたものを生み出す「取り扱う」ために作られた器具を表す	ultramicroscope, ultrasound, ultrastructure
形容詞について	極度に、非常に…	ultralight

差はいつから生じたのかを調べるため、以下の①～③の三つのデータベースを使用し、近代語彙の初出例を探ってみた。なお、傾向の差を明らかにするため、「爆」の付く四語、「激＋動詞系」の語を三語、「超」の付く一語、すなわち「爆笑・爆泣・爆売れ・爆買い・激減・激増・激変・超自然・超ムカつく・超辛い・超豪華・超国家的な」をそれぞれ抽出して調べた。

①『日本国語大辞典（電子版）』

爆笑

漫談集〔1929〕見習諸勇列伝の巻（徳川夢声）

彼れ忽ち無我の境に這入って、嘔鳴り、絶叫し、哄笑し、爆笑（バクセウ）しの盛況を呈して

激減

経済実相報告書〔1947〕

漁獲高が多獲魚のいwashなどの激減により約六割に

激増

明治叛臣伝〔1909〕（田岡嶺雲）総叙・三

汽車の延長、巨船の激増（略）等より生ずる交通通信の便宜

激変

福翁自伝〔1899〕（福沢諭吉）一身一家経済の由来

伯夷叔斉のやうな高潔の士人に変化したとは、何と激変（ゲキ

ヘン）ではあるまいか

超自然

マンフレッド及びフォースト〔1890～91頃〕（北村透谷）

近代の鬼神を駆馳し、新創の幽境に特異の迷玄的超自然（テウシゼン）の理想を着て出でたり

『日本国語大辞典（電子版）』の収録状況から見ると、「爆・激」

は一字の造語成分であるが、19世紀初期にはすでに他の語と組み合わせられて使われている。ただし、文字単位では利用されていない。

それに対して、「超」は、「超自然・超合金・超音波」などのように、一語として収録される例もあるし、「超大物・超一流」などのように、同じ「超＋名詞」であるが収録されていない例もある。つまり、名詞につく「超」は、公的な学術用語で使う場合には「接頭辞」であると説明されているが、学術用語ではない言葉でも接頭辞の機能を持っていることが分かる。要するに、『日本国語大辞典』において、「超」を公的な使用場面か私的な使用場面かによって分類するのは不適切であると考えられる。むしろ、「超」は「接頭辞」であり、下に来る語によっては、名詞性も副詞性も持つものであると言える。

②国立国語研究所 日本語歴史コーパス（CHJ）（5）

激減

太陽（1917）第三十八議會解散？未

歐洲貨物の輸出激減に伴ひ

激增

国民之友（1888）日本人が最も不注意なる政事上の要訣

若し其の弊風を矯正するを勉めずして轉た之を激增し獨り立憲制度を施行するを務むる者あらば

③雑誌記事索引集成データベース ざっさくプラス（明治から現在まで）（6）

爆笑

『苦楽』5—10（探偵傑作号）（1926年10月1日）

爆笑三題

爆売れ

週刊ポスト／小学館「編」2015年8月7日

「爆売れ大復活」ペヤングはマクドナルドとどこが違ったのか
爆買い

週刊ダイヤモンド2014年2月17日

「日中価格差」を求めて情報戦 爆買い 中国人を狙うべし

激減

『東京経済雑誌』62 明治37年7月16日

日銀貸出激減

激增

『実業の日本』5（18）p34—36（1902年）

我國勸業費の激增

激変

『地学雑誌』3（2）（1891年）

温度の激変

超自然

六合雑誌（134）明治25年2月15日

〈論説〉天然超自然説

超国家的な

情報処理学会研究報告デジタルドキュメント2002年9月20

日

そのためには超国家的な権力の枠組みの議論が必要とされ

雑誌の用例から見ると、筆者が想定した「物事が爆弾のようにいきなり起こり、勢いがつよいさま」という意味で「爆」が語を構成するのは確実に近年のことです。特定の社会現象とともに生まれ、一気に流行っているものと認められる。現時点では、ツイッターなど私的の場面以外では、例えば新聞記事では管見の限り「爆買い・爆売れ」の二語しか見られないが、もしかしたら、将来「爆消え・爆流行り・爆流れ」などの語も生ずるかもしれない。

また、「爆」に対して、「激」の方がより安定的であることも分かる。日常的には、「程度が普通以上であるさま」として「激安・激辛」の両語が見られる。ツイッターなどでは「激カワ・激おこ」といった若者ことばとしての使い方が数種見られるものの、公的な場面において新語を生み出す傾向は見出せない。

四 分析およびまとめ

以上の調査から、次のことが分かった。

まず、意味がほぼ一致すると見られる「超・スーパー・ウルトラ」の三者は、用例数の差が大きく、言葉の経済性から考えてみると、「超」の造語力のはるかに強く、これからもっと広がる可能性が見える。ちなみに、「ウルトラマン」「ウルトラセブン」は日本産のキャラクターであり、英語語源から見ると「ultraman」は理解し難い単語であり、完全な和製外来語である。

次に、「スーパー・ウルトラ」は外来語として日本語に入ったが、文法的な役割は捨象し、意味だけを輸入した。接頭語として、主体語基との間にスペースがあるかないかについては、英語では組み合わせの規制がある。しかし、日本語では「スーパー・ウルトラ」の付く語が合成語なのか複合語なのか語形では判断がつかない(7)。そして、文法単位として、「超・爆・激」の三者は同じではないことが改めて指摘できる。文字単位で考えると三者とも副詞性が強

い点では共通しているものの、造語力の差は余りにも大きい。特に、「激」はまだ字音語素のままでよいと考えられる。ツイッターなどにおける若者ことばでは使用例が多く見られるものの、下に来る語は名詞であれ形容詞であれ動詞であれ二音節に省略し、くだけた形で使われる傾向が見える。例えば、「激＋痛い」↓「激イタ」、「激＋むずかしい」↓「激ムズ」、「激＋怒る」↓「激おこ」、「激＋にほし」↓「激ニボ」などである。音節数が「激」の使用に影響するのであれば、自由な接頭辞とはみなし難いと言えよう。

それに対して、従来使用場面で分けられていた、副詞の「超」も接頭辞の「超」も、同じ「接頭辞」として認定すべきである。筆者が以前、「約」の品詞性について考察した際(8)、手元の辞書ではすべて「約」が副詞と認定されていた。しかし、実際の使用例の調査では、「約」は単独で副詞として使われる例は一例もなく、むしろ動詞性が強い「接頭辞」だという結論になった。そのことから、「超」や「約」のような字音語基は文法単位としての再認定が必要であろうと思われる。

「爆」は辞書認定されていないが、日々の新聞報道をみれば、「爆あがり・爆売れ・爆買い」などのように公的な場面でも使われている語は確かに存在している。このことから、「爆」の使用場面が社会現象とともに広がる可能性は高く、「物事がいきなり爆弾のように発生し、勢いが強いさま」という意味での新語が生まれるのではないだろうか。

注

- (1) 山下喜代(2017)『字音形態素の中には、合成語「高景気・極彩色・最高潮・絶好調・大発見・超高速・猛勉強」の前項「高・極・最・絶・大・超・猛」など、程度が高いことや甚だしいことを意味するものがある。近年多用される「激安・爆買い」の「激・爆」などもその例と考えられる。』
- (2) 日本国語大辞典データベース <http://japanknowledge.com>
- (3) 国立国語研究所(2018)『日本語話し言葉コーパス』バーシオン2018.1 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- (4) 朝日新聞記事データベース <http://database.asahi.com/>
- (5) 注国立国語研究所(2018)『日本語歴史コーパス』バーシオン2018.3 <https://chunagon.ninjal.ac.jp/>
- (6) <https://zassaku-plus.com/>
- (7) 今後も、漢字に親しんでいる日本語に、外来語を輸入する際、どのような変遷が生ずるのか、どのように和風になるのか、筆者は興味を持っている。
- (8) 曹佳榮(2016)『「概算」を表す漢語接頭辞』『立教大学大学院日本文学論叢』第16号

参考文献

- 水野義道(1987)『漢語系接辞の機能』『日本語学』6(2)
- 野村雅昭(1988)『二字熟語の構造』『日本語学』7(5)。
- 野村雅昭(1973)『複次結合語の構造』『国立国語研究所報告』49
- 野村雅昭(1978)『接辞性字音語基の性格』『国立国語研究所報

告』61

- 山下喜代(2013)『接辞性字音形態素の造語機能』『現代日本語の研究』東京堂
- 山下喜代(2017)『字音形態素「極・超・激・爆」について』『青山語文』47
- 田村泰男(2005)『現代日本語の接頭辞について』『広島大学留学生センター紀要』15
- 『日本国語大辞典(第二版)』小学館(2001)
- 『新明解国語辞典(第六版)』三省堂(2004)
- 『類語大辞典(大活字版)』柴田武・山田進
- 『三省堂国語辞典(第七版)』三省堂(2013)
- (そう からく 大学院後期課程在学学生)